

小中高生のための

税友あさくら

甘木朝倉地区税務連絡協議会

第60号

令和2年
12月



小学生の税に関する
絵はがきコンクール

第13回 優秀作品 最優秀賞



法人会長賞



甘木税務署長賞



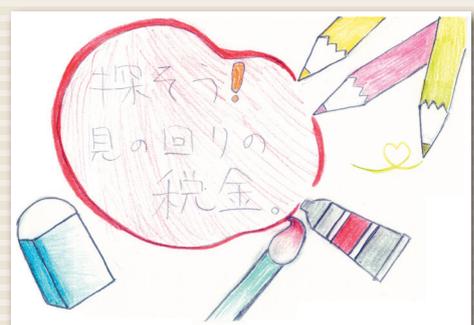
法人会女性部会長賞



立石小学校 6年
三原 芽李 さん



立石小学校 6年
安岡 玲緒奈 さん

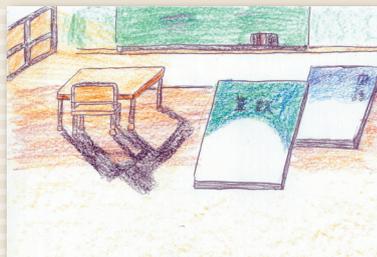


福田小学校 6年
今福 梓 さん



優秀賞

金川小学校 6年
田子森 優奈 さん



福田小学校 6年
井上 真衣 さん



福田小学校 6年
川原 愛莉 さん

税を考えた
11月
11日(水)~17日(火)

※この作品は令和元年1月の受賞作品です。

高校生の優秀作文

★甘木税務署長賞

「税金がなかったら」

福岡県立 朝倉東高等学校
一年 橋本 羽音

★福岡県久留米県税事務所長賞

「税に対しての見方」

福岡県立 朝倉光陽高等学校
一年 手嶋 瑠菜

「未来へと繋がる税金」

福岡県立 朝倉光陽高等学校
一年 三浦 花音

★甘木朝倉地区税務連絡協議会 会長賞

「税の大切さ」

福岡県立 朝倉東高等学校
一年 渡辺 あかり

★朝倉市長賞

「税」

福岡県立 朝倉東高等学校
一年 新田 楓

★公益社団法人 甘木朝倉法人会会長賞

「消費税増税」

福岡県立 朝倉東高等学校
一年 佐久間 たみ

中学生の優秀作文

★甘木税務署長賞

「税金を納めること」

朝倉市立 甘木中学校
三年 宝来 有華

★福岡県久留米県税事務所長賞

「みんなの税金」

朝倉市立 秋月中学校
三年 内田 風花

★福岡県納税貯蓄組合連合会 会長賞

「税を納めるとどういふ？」

朝倉市立 南陵中学校
三年 森 彩夏

★甘木税務署管内納税貯蓄組合連合会 会長賞

「幸せのために」

朝倉市立 甘木中学校
三年 原田 麻由

★甘木朝倉地区税務連絡協議会 会長賞

「税金がなくなったらどうなるの？」

朝倉市立 甘木中学校
三年 山田 梨乃

★朝倉市長賞

「税金を払うことの意味」

朝倉市立 甘木中学校
三年 篠崎 永佳

★公益社団法人 甘木朝倉法人会 会長賞

「もしも税金が一気に増えたら」

朝倉市立 南陵中学校
三年 井上 希



* 高校生の作文

甘木税務署管内の高校より、二三一編の応募があり、その中から六編の作品が入選しました。

* 中学生の作文

甘木税務署管内の中学校より、二六七編の応募があり、その中から七編の作品が入選しました。

高校生の優秀作文

★甘木税務署長賞

福岡県立 朝倉東高等学校

一年 橋本 羽音

「税金がなかったら」

私は、税金がもしなかったらと
いうことについて考えてみた。

身近なことといえば、火事になっても消防車が来ず、火を消せない、急病人がいるのに救急車を呼んでも来ない、ごみの収集がないので、まちがごみだらけになる、教科書や机黒板などがないから授業ができない、警察官がいないので、まちの安全が守れない、病院代が高くなる、水道の水が飲めなくなる、市バスや地下鉄が走らなくなる、公園などの遊具が壊れても修理ができないなど、たくさん不便なことが起こることが分かった。

私たちは三年前に、九州北部豪雨の被害を受けた。多くの家

が被害を受け、田畑も瓦礫や水に浸り、人の命まで奪われた。

だがしかし、多くの警察官、救急隊、自衛隊、消防隊の方々の懸命な救助活動、復旧活動があったことも事実であり、そこにも多くの税金が使われたと考えると、より税金のありがたみを感じる事ができた。災害後も、目を覆いたくなるような瓦礫の山もたくさん目にした。この町は以前のような自然豊かな美しい町に戻れるのだろうか？不安を感じたのを今でも鮮明に覚えている。しかし、日に日に瓦礫の山はなくなり、壊れた建物や橋、道路や河川などは復旧していった。ここにも多くの税金が使われ、三年経った今では

以前と変わらない美しい町に戻ってきている。

去年の十月、私たちが一番身近に感じる消費税が八パーセントから十パーセントに引き上げられた。もちろん、上がったことだけ聞くと嫌な印象を受け、

買物をするのを少しためらったりもした。しかし、日本では毎年のように多くの場所で災害が起き、復旧に多くの税金が使われている。この税金がなくなると思うと日本は成り立っていないだろう。復旧や人命救助にかかった税金に、自分の納め

た税金が使われたと考えると、なぜだか誇らしい気持ちになる。人を助ける、町を助ける、日本を助ける、そこにはかかせない税金があるのだ。

私は日頃から税金を身近に感じる事が、納税の大切さを知る第一歩につながると思った。周りを見渡せば多くのところに税金は使われている。安心で安全な生活が送れているのは税金があつてこそだということをしつかり考えていきたい。なぜなら将来の日本を背負っていくのは私たち若者であるからだ。

この社会あなたの税がいきている



★福岡県久留米県税事務所長賞

福岡県立 朝倉光陽高等学校

一年 手嶋 瑠菜

「税に対しての見方」

国民の三大義務の一つである「納税」ですがみなさんはどのような見方をしていますか。少

しずつ増えていく消費税にイラだちをおぼえますか。それともどこかで自分のためになると理解を得ますか。今回は私の身近なところで起こった私が税に対する見方が変化したきっかけを書いていこうと思います。

おこづかい制で一ヶ月やりくりをしていかないといけない私にとつて消費税はじめに嫌な存在でした。このプラスいくらかの出費がなければ…と考えてしまうからです。どれだけ小学校や中学校で税の勉強をし理解してもやはり好きになれる存在ではありませんでした。公共サービスや学校、公園、図書館など形を変えて暮らしを支えている税ですが、私たちのために使われ

ていると実感している人は多くないと思います。

そんな税に良い印象を持たない私がなぜ考えを変えることになったか。そう、それは巷をさわがせた某ウイルスです。私の家庭は母子家庭でも家族が多く外出自粛というワードがとでも響きました。それでも、食費や交通費、ガスや電気といった生活費にお金は減る一方です。経済的余裕がありませんでした。それを助けてくれたのはみなさんも喜んだのではないでしょう。国から支給された補助金です。発表されてから私たちの手元に届くまでそう時間はかかりませんでした。ここでやっと感じる事ができました。税金は自分たちにちゃんと使われているし、助けてくれている。私は母にこのことを伝

えました。そうすると母は、「確かに今回の給付金が一番分かっただろうけど、他にもあるよ。例えば、私たちの家庭でいうと、母子家庭だからこそその税金との関わりがあるし、あなたが気になっていた道路の補修も税金があったからできたこと。税金がなくなれば自分たちの手元にくるお金は多くなるよ。けれどもいい点はこれぐらいだよ。」と話しました。私は今でもその言葉が脳内の片隅にあり忘れることができませ

ん。

今回、この文章を書くにあたって様々なことを考えさせられました。税金は払うときは嫌なものですが。だけれども、形を変えて私たちの元へと返ってきうことです。道路もゴミ処理も病院も社会保障や公共施設だって私たちの生活に欠かせないもの、つまり税金は私たちに欠かせないものという事です。私はこのことを忘れずにこれからも消費税を払っていこうと思います。



★福岡県久留米県税事務所長賞

福岡県立 朝倉光陽高等学校

一年 三浦 花音

「未来へと繋がる税金」

みなさんは税金がどんな所で使われているか知っていますか？私も百パーセント知っていますとは言えません。ですが税金がどんな所で使われているかどうかは知っておくべき事だと思います、少し調べてみました。調べる前は国家公務員、消防士、裁判官などの給料とかに使われているだけなのに何で自分達が消費税などとして払わないといけないんだらうと思っていました。しかし、調べると違い、様々な場面で私たちの為に使われています。

自分の身近で考えてみると道路が整備されていたり教科書の無償化、学校の設備など、中学生までは義務教育であるためという理由もありますが、たくさんので生かされているのです。中高生の一人あたりの年間

教育費は、約百万程といわれています。ですが私達の払っている額がすべてではなく、ほとんどが税金で払われているのです。世界には、学校に行けないなど、生活に苦しんでいたりと、学校に行きたくても行けない人などたくさんの方がいます。そんな中で私達は、新品の教科書をもらい、環境の整った中で、小学校、中学校と、勉強する事ができます。これほど子供がめぐまれている幸せに暮らせる国は日本くらいなのではないかと思えます。これもよりよい未来へと繋がっていく第一歩だと思います。

また、税金は困っている人を助けてくれるものでもあります。日本では救急車や消防、警察など困った事があれば、電話

するとすぐにかかけつけてくれます。しかし、税がなければすべて有料となります。もし、有料になってしまつて、お金が無いからって救急車を呼ばなかったら、手当てが遅れてしまつて亡くなる人が増えてしまいます。これは警察を呼ばなかった場合も同じで、警察を呼ばなかったら、事件や事故が増えてしまい、決して安全な国とは言えなくなり、人々が安心して暮らせ地復興支援にも使われていると書いてありました。つまり、それは人と人が協力する場所でも

使われているという事です。このように、私達は税金に支えられて生きていくのです。私は税についてくわしく知るまでは、税はそんなに必要な物なのかと思っていました。きっと以前の私のように税をくわしく知らない人からしたら、そんなに必要ないと思つてると思いますが、だから、そんな人達にはぜひ税について知つてもらい理解する人が一人でも多く増える事で、明るい未来へと繋がっていくのではないかと私は考えます。



★甘木朝倉地区税務連絡協議会 会長賞

福岡県立 朝倉東高等学校
一年 渡辺 あかり

「税の大切さ」

私たちは、買い物をしたり、レストランで食事をした時、その代金を支払を通じて「消費税」を負担しています。その税があるおかげで私たちの生活は、支えられています。

税にはたくさん種類があります。主に多いのは所得税、消費税、法人税です。他にも関税、相続税、たばこ税などと、たくさん種類があります。その税たちを私たちが納めることによって、福祉サービスや学校、公園、図書館などの公共施設をきれいにすることや、新しく建てたりすることができるようです。私たちが商品を買う時につく税は、ほんのわずかに感じますが、それが町の道路をきれいにしたり、消防費に使われたりするので、知らないうちに人を助けたりすることができるともいえます。

せん。

しかし、逆にその税たちを払わなくて済むことになったらどうなるのでしょうか。まず、税金が無くなった時、例えば町の道路は誰のものでも無くなり、自分で占領することができません。そのせいで道がふさがれたり、行きたい所にお金をかけて行かなくてはならなくなる場合もあります。また、週に何回か来るゴミ回収車なども来なくなり、町にゴミがどんどんあふれたりするなどと、自分たちの生活にたくさん支障がでてくるのです。そうならないために、私たちは多くの税金を払っているのです。その税をどのように負担するかは、国民の代表者が集まる国会が定める法律によって、決めることとされています。なので私たちは払うことしかできません。

が、そのお金が多くの人々を救うことができます。

私は税についてたくさん調べ、ていくうちに、税の大切さをよく理解することができました。税を払うことで周りの人たちがよりよい生活ができるだけでなく、自分も周りからもらう税によってよりよい暮らしができて

いることに気づくことができました。私は今学生なので、「文教及び科学振興費」というのが見えない所で払われています。私は皆さんからの税をいただいているので、その税を無駄にせず、当たり前の日々を大切に過ごしていこうと思います。



★朝倉市長賞

福岡県立 朝倉東高等学校

一年 新田 楓

「税」

税と聞いても高校生なので「消費税」しか分かりません。だから、消費税についての考えを書こうと思います。

消費税とはみなさんが知っているように商品などを買う時に値段とは別でかかるお金です。中学生のころまでは、お金があまりなくて買い物をする時にいちいち消費税が八パーセントもかかることにイライラしていました。今でも時々、イライラします。その時までは税の重みと大切さに気づいていませんでした。どんな物を買うにしても消費税がかかり、計算するのも大変です。例えば、小学校のころ、一年に一回は遠足に行っていました。その時におかしは五百円までと決められていました。しかし、おかしの値札にはプラス税としか書かれていません。小

学生なので税金の計算もいまいちよく分かりません。だから、「このくらいかな。」と思ってやっとなんでお会計をすると五百円より高くなっていたり、逆にまだ全然買えたりとなつて、結局もう一度選びなおさなければいけません。これでは二度手間になつて正直、めんどくさいです。今では消費税が八パーセントから十パーセントに上がつて中途半端な値段も計算しやすいですが税が上がる前は八パーセントなので計算しにくいです。だから、買い物も一苦労です。

しかし、税というもののおかげで色んなものが作られたり、建てられたりしています。このことを知って私が誰かの役に立っていると分かり、嬉しかったです。それに、税金のおかげで老後も心配ありませんし、私も

どこかで税金にお世話になつていることがあると思います。税金というものは、昔はなかったようですが私はそういう制度ができてなんだかんだ良かったと思つています。

税金が前よりさらに上がったことにより、批判の声もよくあると知りました。しかし、その人達も税金がなぜあるのか、なぜ必要なのかを知らなければきつと不満などがなくなると思います。私だつて、最初は憎たらしかつたけれど、税の大切さを知り、私が払った税金で誰かの役に

立っているのなら、それはとても嬉しいことだと気づきました。だから、税のことを批判している人達もいつかはこの喜びに気づけたらいいなと思います。そうすれば買い物だつて楽しくなるし、税金のおかげで生活できている人達もより幸せになると思います。

また、税金が十パーセントから上がるかもしれないが文句を言わずに、しっかりと払つて誰かが喜んでくれるだろうと思えるようになるとうれしくなるかもしれないです。



★公益社団法人 甘木朝倉法人会 会長賞

福岡県立 朝倉東高等学校

一年 佐久間 たみ

「消費税増税」

私たち国民は日々、税金を国に納めています。学生である私にとって、一番身近に感じる税金は消費税です。昨年、消費税が八パーセントから十パーセントに引き上げられ話題となりました。なぜ消費税が十パーセントになったのか、今回改めて税金について考えていると、その事がとても気になったので調べてみることにしました。

みなさんもご存知の通り、今の日本は少子高齢化が進んでいます。高齢者が増えれば、その分、医療費や年金などの社会保障費も増え、若者が減れば、社会保険料や税金などの国の収入も減ります。その影響で、社会保障費は、ここ三十年で三倍も増えたそうです。その三倍も増えた社会保障費を補うために、消費税が八パーセントから十パーセ

ントに引き上げられたのです。

私はここで一つ疑問に思ったことがあります。消費税の他にも自動車税や固定資産税、不動産取得税など、他にもたくさん税金の種類があります。ではなぜ「社会保障費を補うため」という理由で、今回増税されたのが消費税だったのでしょうか。増税するのは、他の税金でもよかったのではないかと思いましたが、さすが、今回増税されたのが消費税だった理由を知って、とても納得しました。社会保障費は基本、保険料で補うものですが、保険料だけだと働く世代の負担が大きくなってしまいます。それを避けるために、消費税が増税されました。働いている世代だけでなく、全世代で負担を分かち合おうということだそうです。医療費や年金な

どの社会保障費を使う高齢者だけではなく、働いている世代のことも、考えてくれているのだなと思いました。

今回、この作文を書くというきっかけがあったから、税金について考えることができました。このきっかけがなかったら、税金が何に使われているかなど、こんなに詳しく知ることとはな

かったかもしれないと思います。消費税が増税されると決まった時、私はとても嫌でした。でも今は、その気持ちが少し軽減された気がします。これから大人になったら税金と関わる機会も増えていくと思うので、今回学んだことを忘れないようにしようと思います。



中学生の優秀作文

★甘木税務署長賞

朝倉市立 甘木中学校
三年 宝来 有華

「税金を納めるって」

税金と聞いて思いうかぶのはどんなものですか。私は「消費税」がうかびます。消費税の存在を知ったのは、私が小学四年のことでした。休日に少し都会のデパートへ買い物に行ったとき、どうしても欲しいバレーボールのシューズを見つけたので、お正月にもらったお年玉で購入する決意をしてレジへ向かいました。レジで商品を出したとき、最初四五〇〇円だったのが六千円近くまで上がっていたのでびっくりしてしまいました。帰りの車で母に話すと「それは消費税といってね、買い物をするときに一緒にかかるの。消費税は、税のうちの一つなのよ」と説明してもらいました。年金、医療などの社会保障、福祉や、水道、道路などの社会資本整備、教育や警察、消防、防衛といった公的サービスは、私たちの豊かな暮らしには欠かせな

いものですが、その提供には多額の費用がかかります。

こうした「公的サービス」は、例えば、警察や防衛のように、特定の人だけのために提供することが困難なものや、社会保障や教育など、費用負担が可能な人への提供のみでは社会的に不適當なものであり、一般に、市場の民間サービスのみに依存すると、必要な量・水準のサービスが提供されません。

このため、こうしたサービスの費用を賄うためには、みんなが納めている税を財源とすることで、公的に実施することが求められます。

このように、みんなが互いに支え合い、共によりよい社会を築いていくため、公的サービスの費用を広く公平に分け合うことが必要です。まさに、税は「社会の会費」であると言えます。

税の役割は大きく三つあります。一つ、公共サービス、社会資本を提供する（資源の再分配）。二つ、所得の差を縮める（所得の再分配）。三つ、景気を修正する（経済の安定化）。というように、税には、私たちの安全と安心を守る大きな役割があるのです。

日本の税の歴史は古く、その時代の社会の様子に応じて税制は変化してきました。税がその時代の社会を支え、現代社会の発展とともに今日の豊かな暮らしに貢献してきました。

税で苦しい生活をした人がいま

す。しかし、税があるおかげで、安心して暮らせる人々が今たくさんいます。

税を正しく理解し、関心を持つことは、社会の一員として大切なことです。

私は税のことについて母からの話を聞き税金を納めることの意義を学びました。税金は、差別のない、安心した生活をつくるための第一歩だと思います。私たちが平和を願うならば、税の存在はとても重要なものであると私は考えています。だから私は、税金をきちんと納めていきたいです。



★久留米県税務所長賞

朝倉市立 秋月中学校
三年 内田 風花

「みんなの税金」

この作文を書くために、私は税金についての資料をたくさん読んだ。

税金が国にとって必要不可欠なのは知っていたが何から集めるのか、何に使うのかまでは考えなかった。

私の使っている教科書、幼児教育の無償化、町の整備、身の周りですぐさんの税金が使われていると知ったがいまいちピンとこなかった。これは税金があることがあたりまえになっていて税金が無かったら、なんて考えたことが無かったからだ。

平成二十九年七月、私たちの市を襲った九州北部豪雨災害。私の住んでいる地域には大きな被害はなかったが私の思い出の場所、風景は一瞬にして消えていった。何もかもが崩れていって、私はそれをただ画面の外で見ていることしかできなかつた。

「もう戻らないんだ、もう無理だ。」
こんなに被害が出ているのに元どおりにはならないと思ってしまう。
しかし、ボランティアや自衛隊の

派遣により元の輝きを取り戻しはじめた。

今、このことを振り返るとこれも税金のおかげだったことを感じた。私たちが日々払ってきた税金が、役に立ったことを知れて嬉しくなった。税金のおかげで生活を送れている。そう考えると税金のことを調べた甲斐があると思う。

今回の作文を機に私たちの税金に対する偏見を無くしたいと思った。消費税、所得税、県民税、宿泊税、私たちの周りには約五十種類もの税金がある。税金は自分の分のお金から引かれるので嫌だと感じる人が多いと思う。でもその中でも生活できているのは、やはり税金のおかげだ。

税金が無かったら、考えたことは無かったが、いざ考えてみるとこんな幸せな社会は作れない。教科書があること、水道や電気が使えること、授業を受けることのできる校舎があること、それが普通で、これか

らもあたり前ではなくてはならない。そのあたり前を作るためにはやはり税金が必要だ。毎日のくらしの中では気づきにくいのが、今の生活を支えてくれている。

私の払う税金、私を支える税金、これで社会がつながっていると思うと税金はとても身近なものだと感じた。



★福岡県納税貯蓄組合連合会 会長賞

朝倉市立 南陵中学校
三年 森 彩夏

「税を納めることについて」

税とは何か。そう考えたときに思い浮かんだのは国民の義務という言葉です。義務と言う言葉にあまりい

イメージを持つことができませんでした。昨年十月に消費税が八パーセントから十パーセントに上がり大

好きな本やCDを買うときに消費税がなければよかったのになと思うこともあったし、税金によって助けられている実感もあまりありませんでした。もし消費税だけではなく他の税金もなくなったらどうなるのだろう、と思い税金がどのように使われているのかを調べてみました。

道路や橋、空港などの交通機関の整備、警察や消防救急など災害復興、生活の安全の維持、ゴミの処理、私たちの健康を守るための保健、医療、福祉の充実、文化、スポーツ、産業の振興、環境の保護や整備、そしていつも使っている教科書や気持ちよく勉強ができる環境作りなど私たちにとってなくてはならないことに使われていると知りまし



た。

とすると、税金がなくなってしまうたら。火事が起きても消防車が来ない、急病になっても救急車が来ない、ゴミの収集がなくなり街中ゴミだらけ、バスも電車も走らなくなり教科書や机、黒板がなくなり授業が受けられなくなったり、医療が受けられなくなってしまう。災害復興もそうです。

三年前、私が住んでいる朝倉市でも豪雨災害がありました。テレビでは見たこと、行ったことのある施設や学校、道路や川が変わりはてた姿になっていました。父も母もボランティアに行き泥だらけになって帰ってきました。当時私は小学生でボランティアには行けず、くやしい思い

をしたのを覚えています。

3年たった今被災地近くに勤める母から「川で工事があったってだいできてたよ」と聞いたり復興の様子にニュースで流れたりしています。災害前の豊かな自然に囲まれた元氣な朝倉市をとり戻すまであと少しです。ここまで復興へと進むことができたのも税金のおかげなんだろうと消費税がなければと思った自分が恥ずかしくなったのと同時にどれだ

け税金が大事なのかということに気づくことができました。

税を納めるということは「国民の義務」だけではなく、みんなが互いに支えあう、「人と人、人と未来をつなぐもの」だと思っています。

私はまだ、直接税金を納めることはできないけれど、その時がきたら税についての理解をより深め社会に貢献できる大人になれていたらいいなと思います。

★甘木税務署管内 納税貯蓄組合連合会 会長賞

朝倉市立 甘木中学校
三年 原田 麻由

「幸せのために」

私の祖母が六十歳過ぎたあたりから「年金もらうのが楽しみ。」とよく言うようになった。一方母は「高い税金をはらうなら、洋服の一枚でも買いたい。知らない人の年金になるのは嫌だ。」と言う。私は、消費税として税金を納めている立場なので、母の気持ちに納得できる。しかし、自分が年金をもらう立場だったらと考えると、年金をもらうことは老後の楽しみの一つになるのではないかと思う。

今の日本の消費税は八%から十%に上がっている。数字的には、たった二%だけと生活をしていくうちに、「買い物をするたびに消費税を払うのは嫌だ。」「おこづかいの減りがはやいから嫌だ。」と思っていたが、税の勉強をしてから考え方が変わった。

私が毎日登校している通学路、信号。学校で使っている教科書や調べ物をしたり、勉強の息抜きで利用している図書館も税で、担わられてい

る。また、愛犬マロンの散歩に使っている公園も税で担われている。これらを無料で利用できるのは税のおかげだ。

以前、私はラグビーの試合中、脳震とうを起こして救急車で運ばれた。その救急車も税で担われているので無料だった。病院でも、色々な検査をしたが3割負担ですんだのもすべて税のおかげだ。また、小学生以下は病院代千二百円以上はかからない。小さい頃は病气やけが多いから助かると母は言う。発展途上国では、病院にかかれれば命を失う子もたくさんいる。そのような中、私達は恵まれた環境の中で生活できていることに感謝しなければいけない。



このように、税金は私達の暮らしを豊かにすると同時に、私達の生活を守っている。税金は大切なものと再認識させられた。

働いて税を納める事ができない私達が今できることは、学校などの建物、公共物などを大切に扱う。今、あたり前の生活を送れている事に感謝する。たくさんの人によって守られてきた命を大切にする、などがあげられる。

たくさん働くために勉強もをがんばらないといけない。働いて税を納めることが少し楽しみになった。早く、自分も税を通して誰かに幸せを送りたい。

★甘木朝倉地区税務連絡協議会 会長賞

朝倉市立 甘木中学校
三年 山田 梨乃

「税金がなくなったらどうなるの?」

皆は税金についてどう思いますか。所得税や消費税、関税など聞いたことがあったり、実際に納めたことのある税金があると思います。

税金の大切さを改めて考えるために、もしも国に税を納めなくてよかつたらどんな暮らしになっているのかを想像してみましよう。

ここは税金ゼロの国。税というものに苦しめられてないのに楽しそうに暮らしている人は見当たりません。なぜでしょう。

火事を発見しました。普通なら救急や消防に電話をします。でもこの税金ゼロの国は気軽に電話できません。はしご車や救急車を呼ぶのにもお金がかかるからです。

旅行に行きたくなりました。空港に行きましよう。あれ。空港が見つかりません。そう、この税金ゼロの国は、空港を整備するお金がないので空港がないのです。

周りを見ると、道はゴミで溢れか

えっています。税金ゼロの国はゴミ処理費用が必要ないかわりにゴミが処理されず溜っていきまます。

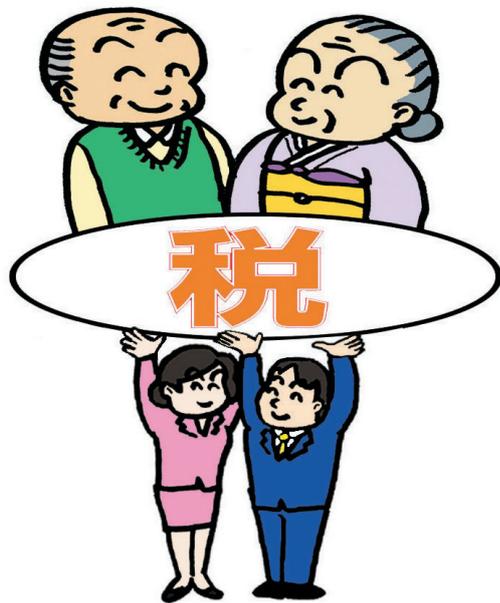
そうです。この税金ゼロの国の人たちは、豊かに生活することができないのです。小学校や中学校に必要な教科書にもお金が必要になります。災害が起きても救助などにも来てくれません。

ここまできると税金というものがどれだけ大切かを考えることができまます。税金は救急車や空港の整備、ゴミ処理費用などに使われています。それだけではなく、小・中学校の教科書などにも使われているのです。

税金は皆の生活をより豊かに、くらしやすくするために使われているのです。この税金は国が最低限の金額で国民がくらしやすくするようにとても考えられているのです。

だから今の自分が存在して何の苦もなく生活することができているの

は、国が決めた金額をきちんと納めてくれる人がいるから。そしてその納められた金額をきちんと無駄なく上手に利用している国。という二つの存在があるからだと思います。
税金はとても大切です。だから納めないといけません。でも納めない



といけない税金が多くて嫌になるかもしれません。でも税金を納めずに生活が不便になったらもつと嫌になると思います。
税金の大切さを心のどこかに置いて生活していきましよう。

★朝倉市長賞

朝倉市立 甘木中学校
三年 篠崎 永佳

「税金を払うことの意味」

「税金」には、消費税や所得税、自動車税などさまざまな種類があります。「税金」と聞いて、以前までの私は、「税金を払うことで何か意味があるのか」ということを考えていました。なぜなら、自分は買い物をするときに消費税を払っているけれど、それに対して自分にとって何か良いことがあるのか、自分は損をしているのではないか、と思っていたからです。しかし、その考えは全く違って、実際は私の生活と「税金」は大きく関係していたのです。その一つとして、私たちが払う「税金」は、義務教育に使われていることを、中学生になった初めのころに知りました。教科書が無償で支給することや、小学校・中学校・高校の建設など、私たちがより良い環境で学習するために使われています。

た。だから、教科書を大切に扱うことや、集中して勉強することなど、自分にできることをして、税金を払ってくれている人たちの思いにこたえていく必要があると思います。

また、その他にも、「税金」は高齢者や体の不自由な人などのための施設や働く人のための保育所の設置、私たちの健康を守るための医療施設の整備などに使われています。これらは、今の私にはあまり関係がないように感じます。しかし、今後大人になっていくなかで、必要となってくるものです。体が不自由になってしまったとき、就職して子どもを育てなければならぬとき、「税金」がなければ生活が大変になると思います。だから、今私が必要ないと思っても、私以外の誰かが必要としている、ということをお忘れずに、しっかりと「税金」を払っていくべきだと考えます。日本では近

そのことを知ったとき、驚いたと同時に、感謝の気持ちがありました

年主に消費税の税率が上昇してきています。その原因として少子高齢化が進んでいる、という現状があります。そのため、今後も上昇し続けていく可能性も考えられます。国民一人一人が今の現状を正しく理解し、「税金」への関心を高めていく必要があると、私は考えます。将来への課題を抱えている日本のた

めに、今私にできることは、自分のもっている知識を広げていくことと、無関心ではなく、テレビのニュースや新聞で、幅広い情報を知ろうと努力することです。自分のため、みんなのため、国のために、この二つのことを大切にしてこれから生活したいです。



★公益社団法人 甘木朝倉法人会会長賞

朝倉市立 南陵中学校

三年 井上 希

「もしも税金が一気に増えたら」

私はこれまでに税金について、それなりに学んでいると思います。

税金は社会にとってすごく重要で無くてはならないものです。でも、私

は税金について少し疑問がありました。

税金のことを学ぶ時、税金の種類やどのように使われているかを学びます。「もし税金がこの世になかったら」という内容を学ぶ機会もあると思います。私はその「もし税金がこの世になかったら」についてある疑問が浮かびました。税金のない世界では道路の整備が行われていなかったり、警察や消防などの公的サービスが使えなくなったりします。では、「もし税金を一気に増やしたら」どうなるのかと思いました。今まで税金がなかったら、という話は学んできたけれど、もし一気に税金

が増えたら、のような考えはあまり考えませんでした。税金を増やせばいいなどの考えは今まで何度か考えたことがあるけど一気に増やす、の考えは今までではじめての考えでした。

そこで私はまず税金を増やしたら国の歳入は増えるのかを考えました。仮に現在の十パーセントから二十パーセントまで税金を増やしたら、歳入も二倍になるのではないかと思います。そうになると、歳出の際の社会保障関係費などの金額は増えるのではないかと考えました。社会保障サービスが豊かになることは国もうるおうのではないかと、私はそ



う考えました。

でも、税金は私達が納めるもので
す。税金が増えるということは私達
の納める額が高くなるということ、
そうなるとその国の人々はどういっ
た思いになるのかなと思いました。
確かに税金は大切ですが、一気に増
えるとなると私達の負担も大きいも
のとなります。歴史をふり返ると、
祖・庸・調などのものから太閤検地
でその土地に合った年貢を納めると
いうものまで色々な税が課されてき
ているけど、その税や年貢を納める
ことができなかつた人や労役が課さ
れた人も多くいました。そのため食
物などをもらえず、不満が重なった
農民の人々は一揆や打ちこわしが起
きたこともありました。つまり、税
金が増え、私達に大きな負担がか
ると不満に思う人々があらわれない
とも限らないという考えにいたりま
した。

税金は私達の生活を支えるもので
もあるけれど、一気に増えると人々
の生活に少なからず支障が出ると思
います。私は、これから税金は少し
ずつ増えていくのだと思います。そ
の税金と上手く向き合っていくこと
が大切だと思いました。

税の標語

全国間税会総連合会 入選

10パーで みんなの笑顔

100パーセント

南陵中学校 二年 高田 和志

税金は かがやく未来の 第1歩

秋月中学校 二年 石原ジュリカ

変えてくれ 住みよい街へ 税金よ

秋月中学校 二年 西岡 佑晟

がんばろう 笑顔のために 消費税

比良松中学校 三年 竹井 紅心

幸せの たし算だよね 税金は

東峰学園 九年 物部 明洸

甘木朝倉間税会が募集した「税の標語」です
本年度は管内中学校6校から1426点の応募がありました。

租税教育活動を やっています

甘木朝倉地区税務連絡協議会では、構成団体が協力し、税知識の向上及び納税意識の高揚を目的にさまざまな活動をおこなっております。



甘木朝倉地区 税務連絡協議会とは？

★構成団体は？

- ・ 公益社団法人甘木朝倉法人会
- ・ 甘木税務署管内
青色申告会連合会
- ・ 甘木税務署管内
納税貯蓄組合連合会
- ・ 朝倉地区
税務相談所運営協議会
- ・ 甘木朝倉間税会
- ・ 甘木税務署管内酒類業懇話会
- ・ 九州北部税理士会・甘木支部

★何をしている団体ですか？

- ・ 一般の方々の税知識や納税道義の向上を目的とした様々な活動を行っています。
- ・ 中学生や高校生の税に関する優秀な作文を表彰する等して、租税教育の支援をおこなっています。